

対馬のジャノメチョウの現状と新産地

境 良朗・杉 憲

対馬のジャノメチョウ *Minois dryas bipunctata* (Motschulsky, 1860) の生息状況と新産地について報告する。既産地は千俵蒔山（上県町）と有明山（厳原町）である（図1）。これらの産地ではともに山頂付近の小規模なススキ草原に依存している。江島（1976）は西日本島嶼のジャノメチョウの変異を調べ、対馬個体群は「特に♀の分化程度が著しい」こと、「朝鮮産と形態的に類似点が見られること」を指摘した。

千俵蒔山個体群の消滅危機

対馬産は貴重な個体群であるが、近年いずれの産地においても徐々に個体数が減少してきていた。特に千俵蒔山は数年前に地域住民による野焼きが復活した頃を境に激減し、瞬く間に姿を消してしまった。消滅の原因については、今のところ野焼きが何らかの影響を与えたと考えられる以外に思いつくものはない。わずかながら生き延びている可能性も捨てきれないが厳しいだろう。今後も注視していきたい

新産地：大鳥毛山中腹

昨年（2019年）、大鳥毛山の調査を行ったが、矢立林道の大鳥毛山登山口からやや登った辺りで本種を数頭確認した。有明山とは直線距離にして約4km、2地点のほぼ中間に位置する月輪山からの記録はない。生息環境は低木が茂る中に食餌植物であるススキが点在する明るい環境で、周囲にはアカガシの小規模な林も見られる。その後、矢立林道沿いのススキ小群落でも数頭見ることができた。

- ・数頭目撃・撮影, 26.VII.2019, 対馬市厳原町大鳥毛山中腹. 杉・境（写真1）
- ・数頭目撃・撮影, 31.VII.2019, 対馬市厳原町大鳥毛山中腹（矢立林道）. 杉
- ・4♂1♀, 1.VIII.2019, 対馬市厳原町大鳥毛山中腹（矢立林道）. 境（写真2・3）



図1 既産地と新産地



写真1 休息する♂



写真2 大鳥毛山産♂裏面

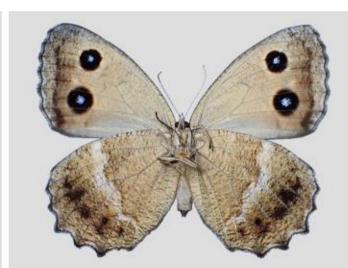


写真3 大鳥毛山産♀裏面

大鳥毛山の個体群が元々孤立したものであったのか、あるいは有明山由来によるものなのかは分からないが、厳しい環境の中で小規模な発生を繰り返しているのは確かである。

引用文献

江島正郎, 1976. 西日本島嶼のジャノメチョウの変異. 対馬の生物, 441-447 長崎県生物学会